
さくら

こいん0712

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

さくら

【Nコード】

N3788K

【作者名】

こいん0712

【あらすじ】

桜が舞い散る季節

ハルの彼女はこの舞い散る桜が好きだった

ハルの彼女は三年前死んでしまったのだ

ハルはもともと桜が嫌いだったが彼女が桜が舞い散るこの季節に死んだので

もつと嫌いになった

けど・・・桜が舞い散るこの季節に毎年絶対ハルは見に来るのだ
嫌いなはずなのにその理由とは？

（前書き）

どうもこいん0712です

今回はケツメイシさんのさくらをもとにしてこの小説をかきました
出来れば感想を書いてください

この小説はケツメイシさんのさくらを聞きながら読むと楽しめると
思います

僕には結婚を約束した彼女がいた

そう、いるじゃなくて過去形のいた、なのだ

僕は桜が大ッ嫌いだ舞い散る桜が見ていると命一つ一つが散っていくようなきがするんだ

僕の彼女「舞」は「またそれがいいんじゃない」とかいいながら

舞い散る桜のように死んでいった

今日は舞の命日だ

僕は舞の命日には舞にプロポーズしたこの桜の木ある場所へ絶対くる

絶対といっても舞がしんでからまだ3年だけど毎年舞の命日にはこの桜のところへ来る

ここに来ると舞と過ごした日々全部と舞の声が戻ってくるんだ「ハル好きだよ」とか「ハル何でわかってくれないの?」とかが聞こえてくるんだ

僕はそんな事を思い出していたら芝生の上で寝てしまった

そして・・・「こんな所で寝てると風邪ひきますよー」と起こされた

僕は「舞?」と思って起きると普通の女の人だった

「すみません」と僕は謝る

舞が生きてるのなんかありえないのにここにいると舞が生きていてもおかしくないと思ってしまう

上の方を向くと暖かい陽の光がこぼれる

僕は肩に舞い落ちたひとひらの花びらを手に取って握り締めて目をつむると舞、君がね傍にるように感じるんだ

そんな事ありえないでも今日だけは思ってしまう

そしてね舞、君と過ごした時の記憶が蘇るんだ

たわいない事で喧嘩した時の事や一緒に笑った事も全部全部

君と過ごした時の記憶が次々と蘇るんだ

君とここで初めてデートした時にここで君と初めてキスをしたことや

何もかもが蘇るんだ

君の声 君が風舞う髪のをかきわけた時の淡いかおりも

君のすべてが蘇るんだ

そして最後に僕がここでプロポーズした時のことも

ここで喧嘩した時のことも……

「あれ、なんでだろ？」僕は泣いていた。舞、君の事をここで思い出すとね涙が出るんだよ。そして舞、昔君に言われた「泣いたらかつこ悪いよ」って声が聞こえるんだでも涙なんか止まりやしない舞、君が死ぬからいけないんだ「何で死んだんだよう舞 僕の事も考えなくてれよさみしいじゃんかよお舞。お前が悪いんだからお前のせいで今ぼくは泣いてるんだからなお前のせいでお前が死ぬから僕は今カツコ悪いんだよう舞 舞い」

僕は芝生に寝転がり右手で目を押さえながら君の事を想いつきりながら泣いた「舞、舞、舞なんで死んだんだよ何で舞何で何で」

僕は想いつきり泣いた後「舞ー聞こえてるかーお前の彼氏のハルだぞー」

お前のこと忘れないから奥さんが出来たとしてもお前のことは忘れないからーでもおれ嘘つきだから忘れるかもしれないーそのときはここに来てすべてが変わらない風の強さも、

二人で寝転がった芝生も何もかもが変わらないこの桜の木の場所でお前の声、お前の香り、お前の笑顔、お前の怒ってる顔も、お前が泣いてる顔もお前と喧嘩した事もお前と笑った事も、お前と泣いた事も、初めてここでデートしたことも、ここで初めてキスしたことも、結婚は出来なかったけど・・・お前に舞にここでプロポーズした事も全部お前が好きだったこの場所でお前の大好きな桜の木がある場所で絶対に思い出すからー忘れる事はあつたとしてもすぐにここに来てすぐ思い出すからー安心して天国で休んどいてくれーそして俺がもし死んで舞のところへ行つた時には結婚しようー!!」僕は泣きながら叫んだ天国にいる舞に届くように叫んだ

気のせいかも知れないけど僕にはハッキリと舞の声で「私もハルの事忘れないよ桜の木はないけど初めてデートした場所もキスした場所無いけどプロポーズは天国でも聞こえたからー私もハルのこと忘れないー」

とハッキリ、くつきり舞の声で聞こえたこれは気のせいじゃない絶対に舞だ「まーい大好きだー」僕はこう叫び舞が大好きなこの桜の木がある場所を後にした。

「舞本当に今でも大好きだよ」・・・・・・・・・・・・・・・・

（後書き）

ここまで読んでくれてありがとうございます

この小説を書いている途中で涙が出てきちゃいました
作者が泣いてどうずんだよって感じですよ
でもこの作品は僕のお気に入りです
できればコメントお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3788k/>

さくら

2011年10月6日20時38分発行